

## 8. ヘクソカズラ（アカネ科ヘクソカズラ属）

### *Paederia scandens* (Lour.) Merrill

2014年8月

道端や空き地の塀などに絡まって生育するつる植物で、茎は左巻きに長く伸びます。葉は多少の毛があり披針形から広卵形まで変化に富んでおり、長さ4~10 cm、幅1~7 cmで先は短くとがり、基部はやや心形で短い柄があります。個体により葉の形態が異なることもあり、調査時には別種と思しき個体もあります。花は8~9月ごろ葉腋に2出集散花序をつくり、長さ1 cmほどの鐘形で、先は短い5裂片に分かれた白い花をたくさん咲かせます。花の中心が紅紫色で、その色合いからお灸を据えた後に見立てたものからヤイトバナ（灸花）の別名があります。葉や茎、果実に悪臭があることから最悪の名前である屁糞蔓と呼ばれ、万葉集にも「くそかづら」で詠まれています。あまりに可愛そうなのでサオトメバナ（早乙女花）の名前も与えられましたが普及しませんでした。果実は薬用になります。海岸に生育するタイプはハマサオトメカズラ（var. *maritima* (Koidz.) Hara）といい、葉が厚く光沢があつて毛はありません。



ヘクソカズラ



ヘクソカズラの花拡大



ハマサオトメカズラ



ハマサオトメカズラの葉